公益社団法人へ移行しました

四月十一日の理事会に合わせて、「公益社団法人下伊那西部シルバー人材センター」の真新しい看板が、正副理事長により掲げられました。看板は今回も園原峯正理事に用材から揮ごうまでお世話になりました。

下伊那西部シルバー便り
H23.4.11
No.6
発　行
㈳下伊那西部
シルバー人材センター
印　刷
龍共印刷㈱

公益社団法人への移行にあたって

理事長　福岡昭一

東日本大震災で犠牲になられました方々のご冥福を心よりお祈り申しあげますとともに、被災された方々にお見舞い申しあげます。一日も早く復興の日が訪れますようお祈り申しあげます。

下伊那西部シルバー人材センターは、新年度入りしたこの四月一日より、新しく公益社団法人としてスタートしました。

公益性と法人としての健全性が認められ、社会的信用を得たということでありますが、同時にこれまで以上に社会のために力を発揮し、会員一人ひとりの意識を高めていくことが求められます。

地域に根ざしたシルバー人材センターとして、私たち高齢者が、「自主・自立、共働・共助」の基本理念の下、働くことを通じて自らの生きがいの充実と、健康を得、地域社会への貢献を目的とした、下伊那西部シルバー人材センターを目指して、事業推進を図っていかなくてはならないと考えます。

当センターの会員は現在百九十名です。会員の皆様は、それぞれの得意分野で地域に根ざした活動をされており、二十二年度の事業実績は、就業人日では六、三〇〇人日を超え、契約額では三、〇〇〇万円余となり、前年に比べますと一二八パーセントと大きく伸びました。また健全な運営ができました。これも地域の皆様と、阿智村、平谷村、根羽村のご支援ご協力があっての結果でありまして、深く感謝申しあげます。

東日本大震災と原発事故の影響が、私たちの地域の経済や暮らしにもじわじわと及んできています。

会員の皆様、第一に健康に留意して、仕事には誠実さを忘れずにこの困難を乗り越えて頑張りましょう。

ホームページを開設しました

この度、当センターのホームページを開設し、情報を発信していくことになりました。

http://www.sjc-shimoinaseibu.com/

お祝い

阿智村長　岡庭一雄

このたび、下伊那西部シルバー人材センターが、公益社団法人として認可され、新たにスタートを切るにあたりお祝い申し上げます。

下伊那西部シルバー人材センターとして発足以来役員皆様のご努力と会員皆様のご協力により順調に事業を進めてきていただいておりますことにまず感謝申し上げます。

私どもの西部地域は、高齢化率も高く、高齢者の皆様が元気でご活躍いただくことが地域の元気の源となっております。

こうした意味からも、生涯現役で仕事を通して社会とつながりを深め、頼りにされる毎日を提供していただくシルバー人材センターの役割は大きいものがあります。

三月十一日に起きた東日本大震災、津波災害、原子力発電所事故により、我が国は未曽有の危機に見舞われています。犠牲になられた方々にお見舞い申し上げ一刻も早い復興を願うものでありますが、これを機に我が国のありようは大きく転換しなくてはならないと考えます。お金中心の大きければ大きいほど良いとしてきた社会から、安全や安心を優先して考える社会へと変わる必要があります。

エネルギーや介護、食料がこの地域の中でできるだけ自給できる社会が目指すべき社会像になります。当然これを担うことのできる人材が必要になります。こうした意味においても、シルバー人材センターに活躍していただかなくてはならないと思います。

一層のご活躍を願っております。

発展を祈念して

平谷村長　小池正充

下伊那西部シルバー人材センターも立ち上げてから四年目を迎えるわけですが、その間携わり業務を発展、浸透させてくれた皆様に対し、その御苦労に感謝を申し上げます。

ここにきての公益法人法の改正により、シルバー人材センターでは、理念、地域社会に果たす役割から新たに公益社団法人に移行の選択をされました。

二十年度に西部地域によるシルバー人材センターの立ち上げ業務に入り、今年で四年目の年として定着し、当初の計画通り進んでいると聞いて喜んでいます。

国での経済状況は、混迷度を増している昨今ですが、当地域には非常に厳しい状況下の中、皆様には日頃シルバー人材センターの事業の普及と拡大に取り組まれ、大変に成果を上げられていることにも敬意を表し、心から喜ぶしだいでございます。

平谷村としても急速な少子高齢化が進展している中で、村民の活力を維持し持続可能な村づくりのためにも、高齢者に対する期待が高く、シルバー人材センターの施策を進めるために一体となり共に厳しい状況を乗り越えて、村、シルバー人材センターの発展と活性化に努める覚悟ですので、今後のシルバー人材センターの普及浸透をお願いします。

下伊那西部シルバー人材センターが今後益々発展し活躍されることと、会員皆様の益々のご健康と幸せを心から祈念するものです。

公益社団法人に移行して

副理事長　片桐和人

昨年は前例のない環境の移り変わりで、夏の気候に悩まされながら、また冬には大雪で寒さ冷たさがきつく家に籠ることが多くあった。

苦しい経済も長く、厳しい世相が続く時、事業仕分けでシルバー人材センターは厳しい指摘を受けましたが、会員の皆様の知恵と協力を得ながら前向きに進めることができています。

小さなボランティア精神の団体から立ち上げって今日に至り、合併を重ねて組織も充実されました。

過日、平成二十三年四月一日付けで、公益社団法人下伊那西部シルバー人材センターに発展変更になりました。働く皆様方が地域に根を張って

地域社会活性化の旗手に

飯田公共職業安定所長　高野元良

下伊那西部シルバー人材センターにおかれましては、平成二十年十一月に社団法人として発足以来、地域における高年齢者の就業機会の確保を通じ、会員の皆様の社会参加と生きがい、健康づくりに尽力いただき、また文化、奉仕活動等にも積極的に参加されていることに対しまして心から感謝申し上げます。

さて、団塊の世代をはじめ、今後高年齢者の大幅な増加が見込まれますが、その雇用や就業機会の確保が急務となっております。

会社との雇用関係に基づく就業につきましては、ハローワークでは六五歳までの安定した雇用を確保するために、定年の引き上げや雇用継続制度の導入に取り組んでおりまして、着実に定着しつつあります。さらに何らかの仕組みで七〇歳まで働ける企業の実現を目指すプロジェクトを実施しております。

一方、就労を通じた社会参加としてのシルバー人材センター事業は、高年齢者ご自身が生きがいを持って社会に貢献、参加するために不可欠な事業であることは言うまでもありません。

この度公益社団法人の認定を受けられ、新たな一歩を踏み出される貴センターが、今まで以上に地域の就業、生きがいづくり、地域社会活性化の旗手としての役割を遺憾なく発揮されることをご期待申し上げます。

結びに、貴センターの益々のご発展と会員皆様のご健勝を祈念申し上げましてご挨拶といたします。

地域社会を支える重要な組織として

根羽村長　小木曽亮弐

この度「下伊那西部シルバー人材センター」が、関係する皆様のご尽力により、無事に公益社団法人に移行され、新たな組織として再出発されますことに、まずもってお祝い申し上げますとともに、これからの一層のご活躍を期待するところであります。

さて、「下伊那西部シルバー人材センター」は、平成二十年十月に設立されたわけでありますが、その前身であります根羽村シルバー人材センターは、平成十四年に発足し活動してきた古い歴史があります。近年は、極端な少子高齢化現象や、遊休荒廃農地の増加等、様々な社会問題が起きています。こうした中で、シルバー人材センターでは「自主・自立、共働・共助」の精神のもと、長年培ってきた経験や技術を生かして、自らの生きがいづくりに加え、地域社会を支える組織として、重要な役割を担っておられます。地域に人が住み続けられるには、そこに住む人たちが生き生きと、そして活力を持ちながら生活することが必要です。それぞれが何をしたらよいのか、何ができるのか、今一度考え行動することが大切であると思います。

広く活動されることができる喜びを嬉しく思う次第です。組織が拡大されても、身近な手の届く仕事を大切にして、あらゆる職業に自分の技術で何ができるかと考えて行きたいと思います。専門性と人間力を兼ね備えた人材を互いに勉強して、次世代に残していく今日、生きていられることがどれ程素晴らしいことか感謝せずにはいられないことです。

センターの会員の皆さんが健康で一日一日を大切にされ、公益法人になった組織を愛して互いに手を取り合っていきましょう。

最後になりましたが、今回東日本大震災で被害に遭われた皆様方が、一日も早く安全で安心な生活ができるようになることを祈っております。

今回の公益社団法人への移行によって、今まで以上に就業の機会や活動範囲が拡大するとともに、会員相互の交流や研修によって技術の習得がなされ、より強固で地域社会に貢献する組織として活躍されることに大きな期待を寄せるところであります。

今後の「下伊那西部シルバー人材センター」の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

＝第五回通常総会を開催＝
公益への移行で最後の総会として

社団法人下伊那西部シルバー人材センターとしての最後の総会となる第五回通常総会を、三月二十八日に阿智村コミュニティ館二階ホールにおいて開催しました

総会には委任状出席を含め一七三名の会員が出席しました。冒頭、東日本大震災でおしくなりになった方々に黙とうをささげご冥福をお祈りしました。

年度末のお忙しい中、来賓としてハローワーク飯田所長、阿智・平谷両村長、阿智村議会議長はじめ三村関係者のご臨席のもと、議長には高坂正登会員にお願いして審議を行ないました。議事は、平成二十二年度補正予算案、平成二十三年度の事業計画及び予算案が審議され、いずれの議案も満場一致で承認されるとともに、新年度を期して公益社団法人への移行について報告がされました。

また、二十二年度の二月末現在の事業実績が示され、前年度比一二〇％余の伸びと、就業延数・契約高いずれも目標を超えることが報告されましたが、会員各位のご尽力に感謝いたすところであります。

総会終了後は、「危険ゼロをめざして」と題して、シルバー保険を契約しているエース損害保険㈱リスクマネジメント室長の東さんによる安全就業講話を行ないました。補償額が一億円余も当たり前と高額化している現状の報告があり、安全第一の考え方とヒューマンエラー、ヒヤリハットなど、改めて認識する内容でした。

お願い　東日本大震災義援金の募集

三月十一日発生した東日本大震災は未曽有の大災害をもたらしましたが、いまだに余震が続く中、原発事故の終息見通しも不明で、多くの方が不安な避難生活を強いられています。被害地のシルバー人材センターにおきましても、役職員並びに会員の方々の死亡・安否不明、事務所等の損壊など、言い尽くせぬ甚大な被害を受けています。

全国シルバー人材センター事業協会から、全国のシルバー人材センター等への義援金の呼びかけがなされています。

当センターでは理事会において、五月の総会開催通知と新年度会費の納入に合わせて、班長さんを通じて募金活動を行なうこととしました。すでに皆さん方には各方面を通じて支援がされているところではありますが、重ねて義援金の呼びかけにお応えいただきますようお願い申しあげます。

新入会員の紹介

四月に入会された皆さんです。よろしくお願いします。（敬称略）

佐々木　末代	平谷村	四月
滝澤　なな衣	平谷村	四月
渋谷　美智子	平谷村	四月
滝澤　カツミ	平谷村	四月
熊谷　はるみ	平谷村	四月
林　憲子	阿智村春日	四月

理事会で諸規程等を整備

四月十一日に本年度第一回の理事会を開催しました。今までの諸規程を公益法人への移行に伴い整備するとともに、財務規程、印章規程、個人情報の保護に関する規程を新たに制定しました。規程類は今回から理事会の決定事項となりましたので、制定された諸規程等は次回定時総会（五月二十七日予定）に新規程集をお配りします。

編集後記

かねてより進めてきました公益社団法人への移行について、三月に県知事から移行認定書の交付を受け、四月一日法務局へ設立の登記申請を行ない受理されました。これにより新年度から公益社団法人として活動していくことになり、公益性が認められて喜ばしいことですが、それだけ社会的責任も重くなりました。今まで以上に会員の皆さんの協力を得てセンター運営をしていきたいと思います。

（事務局長　原）